

〈日本女性史研究〉の明治・大正・昭和三十年代までの
稀覯文献四十四点を影印複製。

上 笙一郎
山崎 朋子 編纂



複製 全23巻／別巻1
日本女性史叢書

クレス出版

〈日本女性史研究〉の稀覯文献

世界はもちろん日本においても、〈歴史〉は〈男性知識人〉の筆によって書かれ、それは、数千年このかた、〈権力者の讚美歌〉であるかまたは〈権力交替史〉であった。近代を迎えてから、沛然と興った民衆運動を基盤として〈民衆史〉がこころみられ、次いで興ったフェミニズムを原動力として〈女性史〉に眼がそがれるに至った。しかし、民衆・女性とともに長く虐げられて来た〈子ども〉については、〈教育史〉は山を成しているのに、その生活と心情を汲み取った〈児童史〉は皆無だったとしかなくてはならないのである。いま、民衆史・児童史は揃って〈女性史〉に絞って記すとすれば、日本におけるその試みは、近代初期としての明治期にはじまったと言いうことが出来る。そして、それより大正期にかけて少なからぬ数の〈女性史的書物〉が出版されたが、それらは、男性優位Ⅱ女性劣位の政治的・法律的・社会的状況を反映して、下田歌子ただひとり例外として、〈女性〉ではなくて〈男性〉の手で書かれたものであった。〈歴史学の眼〉で見れば、厳密な意味での〈女性史研究〉とは言えず、女性英雄列伝か女性哀史的な〈俗的読物〉でしかないが、しかし、当時の、それも〈男性〉の眼と手においては、そのようなものしか成就しなかったのだ。

昭和期に入ってようやく、高群逸枝など〈女性の書き手〉が現れて来た。けれども、時代状況はいわゆる十五年戦争のさなかであり、大日本帝国のアジア侵略戦争への協力的な竿差しがらみでなくては発言できなかつたのは、何とも不幸なことであった。

二次大戦の敗北より六十年の歳月を経て、日本の女性史研究は、女性運動の思想的発展に歩調を合わせて脱皮Ⅱ新生を繰り返し、今や日本歴史学において巨大な存在となつて来ている。その到達度より見れば、過去の女性英雄列伝あるいは女性哀史的な〈読物的研究〉は、取るに足りないということになるかも知れない。

しかし、〈日本女性史研究〉という全体的な視点に立つなら、明治・大正・昭和前期の〈読物的研究〉も女性史研究進展の一段階を示すものであって、見過すことは許されまいだろう。そこで、当時の文献の主要なものを、ここに複製するのである。

四十四点の書物を二十三巻に収めたが、二〇〇七年の今日では、すべて稀覯本と言わなくてはならない。高群逸枝の『母系制の研究』（一九三八年）や柳田国男の『妹の力』（一九四〇年）など劃期的な文献を入れなかつたのは、これらが、各々の全集に収められているほか文庫本にもなつていて、世に謂う稀覯の書ではないからだ。

児童史研究者の上笙一郎は、先年、複製『日本子どもの歴史叢書』全二十九巻（一九九八年・久山社）を編んでいるが、いま、その妻Ⅱ山崎朋子の主導により、〈児童史〉に並ぶ〈女性史〉の研究の文献の複製が実現したわけである。幸いに歓迎されて、日本女性史の今後の研究に役立つことを、心より願わないではいられない――

上 笙一郎（児童史研究者）
山崎 朋子（女性史研究者）

〈明治大正期 全11巻〉

- 第1巻 明治大正期①** (解説Ⅱ大口勇次郎)
西洋日本 女権沿革史
辰巳小二郎著／哲学書院／明治20年8月
近世 女子教育法
育成会編／同文館／明治32年1月
日本女史
須藤求馬著／松島三松堂／明治34年8月
- 第2巻 明治大正期②** (解説Ⅱ猿渡土貴)
美姫遺蹟
池辺義象・増田于信著／金港堂書籍／明治36年12月
日本売笑史 附吉原の沿革
中山丙子著／寸美会／明治39年4月
- 第3巻 明治大正期③** (解説Ⅱ山崎朋子)
日本女性史
伊藤銀月著／如山堂書店／明治40年12月
日本情史
佐々醒雪著／新潮社／明治42年12月
- 第4巻 明治大正期④** (解説Ⅱ上笙一郎)
女子研究
吉田熊次著／同文館／明治44年11月
- 第5巻 明治大正期⑤** (解説Ⅱ山崎朋子)
日本の女性
下田歌子著／実業之日本社／大正2年1月
- 第6巻 明治大正期⑥** (解説Ⅱ上笙一郎)
大日本閨門史
白柳武司著／東亜堂書房／大正2年4月
- 第7巻 明治大正期⑦** (解説Ⅱ池川玲子)
日本女性史
久保田辰彦著／弘道館／大正3年2月
- 第8巻 明治大正期⑧** (解説Ⅱ江刺昭子)
琉球女性史
伊波普猷著／小沢書店／大正8年10月
女性史の根本的研究
中沢信著／文章院／大正9年7月
日本恋愛史
村田実著／聚英閣／大正14年11月
- 第9巻 明治大正期⑨** (解説Ⅱ菅原正子)
国史に現はれたる 問題の女性
中央史壇／国史講習会／大正10年10月
女人政治考
佐喜真興英著／岡書院／大正15年6月
- 第10巻 明治大正期⑩** (解説Ⅱ曾根ひろみ)
日本女性史論
中川一男著／大日本図書／大正14年3月
- 第11巻 明治大正期⑪** (解説Ⅱ尾崎るみ)
東西女性発達史
池田林儀著／東京宝文館／大正15年12月



〈昭和期 全12巻〉

- 第12巻 昭和期①** (解説Ⅱ義江明子)
古代女性史論

第10巻 日本女性史論

第六章 現代の女性

第一節 現代の女性

明治時代に於ける女性の自覚解放運動は、その始主として外部の男子によつて叫ばれ、ついで文藝や西洋思想の影響を受けて發達したものであつたが、最後に青踏社の出現により女性自らが之を高唱するに及んで茲に女性の自覚は完成されたものといふべきである。實際、この運動が社會に大きな波紋を描いたものであるだけに、又一般社會から強い指彈を受けただけ、それだけ深く女性それ自身にとつては深い覺醒を促したもので、現今智識をもつあらゆる婦人にこの思想を持たぬものは一人もない程に廣がつていつたものである。

女性自覺の程度 けれどもこの女性が自覺といひ覺醒と唱ふるものは、只自覺したことそれだけであつて一般にはそれ以上に何等の思想的展開をしてゐなかつた。即ち女性は從來の家といふ

現代と女性

四二九

第16巻 女性二千六百年史

女性史について

本誌(○女性展覧)の前々號および前號の座談會で、女性史のことが話題に上つてゐたが、この問題は、最近女性界に現れた一つの重要な社會的現象として、女性一般の正しい理解と支持とに俟つべきものが多いやうに思ふ。

私が女性史についての計畫を發表したのは、昭和五年の賀狀であつた。この賀狀で、私は初めて私の希望を知友諸氏へ相談したのであるが、當時竹中繁子氏が朝日の婦人室といふ欄で激勵を與へられた以外には、何らの反響をも聞くことはできなかつた。數年後の今日、社會が女性史への關心を幾分なり持ちはじめようになるだらうなどは、當時私としては夢にも考へてゐなかつた。

女性史の要求が、國外からと、國內からと、期せずして同時に出現したことに、恐らく二つの見方があるのではないかと思ふ。

女性史のために

一三一

第20巻 女性文化史

一 女性の文化的才能と役割

人間生活の舞臺を歴史的に考へてみると、家庭と社會とにわけられる。今日では、これらのもののほかに、なほいくつかの生活舞臺がある。集團的生活の舞臺であるが、大きくみれば、社會のなかにふくまれる。とにかく、大別して、家庭と社會とになるのであるから、その二つについて考へなければならぬ。

女性の生活舞臺が、男性と同じやうに、この二つにあつたことはいふまでもないが、その兩方にあつたとしても、家庭と社會とのいづれの方に生活の重點がおかれてゐたかといふことは問題としなければならぬことであり、それはまた、時代によつて異つてゐたのである。つまり、それは女性の社會的地位の變遷に應じたものであり、その地位が低くなるにつれて生活の舞臺は家庭にだけ限られて社會に出ることが許されなくなるといふ傾

複刻 日本女性史叢書 全23巻／別巻1

上笙一郎・山崎朋子 編

A5判／上製函入クロス装／本文中性クリーム紙

- 第1回配本 明治大正期Ⅰ 第1巻～第6巻 全6巻 揃定価84,000円(税別)
平成19年10月末日刊行 ISBN978-4-87733-385-0(セット)
- 第2回配本 明治大正期Ⅱ 第7巻～第11巻 全5巻 揃定価70,000円(税別)
平成20年3月末日刊行 ISBN978-4-87733-386-7(セット)
- 第3回配本 昭和期Ⅰ 第12巻～第17巻 全6巻 揃定価90,000円(税別)
平成20年7月末日刊行 ISBN978-4-87733-387-4(セット)
- 第4回配本 昭和期Ⅱ 第18巻～第23巻 全6巻 揃定価82,000円(税別)
平成20年12月末日刊行 ISBN978-4-87733-388-1(セット)
- 第5回配本 別巻 日本女性史〈総論〉、各巻解説を纏めて再録 定価4,000円
平成21年刊行予定 ISBN978-4-87733-389-8
全23巻／別巻1 揃定価330,000円(税別)

● クレス出版好評既刊書 ●

家庭文庫

全12巻別冊解説 上笙一郎・山崎朋子編纂

大正の初期に、当時の女子・高等教育のリーダーとして高名だった人たちが、下田歌子・嘉悦孝子・吉岡弥生・棚橋絢子・津田梅子・矢島楯子・山脇房子・跡見花蹊・三輪田真佐子などが、〈婦人文庫刊行会〉という会を結成。この会が、江戸時代の女訓書を集成した『婦人文庫』(全12巻)に次いで、その近代版として編んだもの。〈女性思想〉を追究し〈家庭思想〉の展開を跡づけるためには必須の貴重文獻。

四六判／総4,540頁／揃定価91,000円 ISBN4-87733-326-6

- 《女性原論》新婦人訓(成瀬仁蔵)、良妻賢母論(宮田脩)
- 《家庭原論》家政講話(嘉悦孝子)、家庭経済(和田垣謙三)
- 《家庭生活》理想の住宅(保岡勝也)、家庭衛生(吉岡弥生)
- 《家庭教養》家庭博物(石川千代松)、新美装法(藤波芙蓉)
- 《家庭文化》家庭の娯楽(松浦政泰)、芸術講話(島村抱月)
- 《産育教育》児童の教養(三田谷啓)、童話の研究(高木敏雄)

叢書 日本の児童遊戯

全25巻別巻1 上笙一郎編、各巻解説付

江戸時代より第二次大戦期までに出版された〈子どもの遊び〉にかかる文献のうち、理論的・研究的・教育的・実技習得的および好事趣味的なもので、しかも稀覯的なものを復刻。

- 第1回配本 Ⅰ. 伝承的な遊びと玩具 第1巻～第9巻 全9巻 揃定価94,000円 ISBN4-87733-200-6
- 第2回配本 Ⅱ. 近代の遊びと研究 第10巻～第16巻 全7巻 揃定価83,000円 ISBN4-87733-201-4
- 第3回配本 Ⅲ. 遊びと子ども 第17巻～第25巻 全9巻 揃定価98,000円 ISBN4-87733-202-2

別巻 総論 日本の〈遊び＝おもちゃ研究〉のあゆみ(上笙一郎著)

叢書 日本の児童遊戯 全25巻 解説集

定価5,000円 ISBN4-87733-203-0

A5判／総14,460頁／揃定価280,000円 ISBN4-87733-204-9

女性日本人

全12巻／別冊総目録、解題付 佐藤能丸監修

婦人総合雑誌として三宅花圃が主宰し、大正9年9月に創刊、大正12年9月の終刊まで全38冊が刊行された。婦人参政権・男女平等・生活改革・恋愛と貞操など多方面に目配りした重要な問題を取りあげている。また大正後期の文学状況を知るに不可欠な資料。

A5判／総7,900頁／揃定価175,000円 ISBN4-906330-74-6,75-4

婦人と新社會

全7巻／別冊総目録、解題付 五味百合子監修

山田わか個人の評論雑誌として、わかを主筆に、夫嘉吉を編集発行人として大正8年4月創刊され、昭和8年7月第160号まで刊行されたものを復刻。婦人問題研究の宝庫であり、わかの問題は「愛」という主張が全号を通じて掲げられている。

B6判／総5,100頁／揃定価本体90,000円 ISBN4-906330-76-2

家族研究論文資料集成

明治 大正 昭和前期篇全27巻別巻1 老川寛監修・解説

明治初期から昭和20年8月までの「家族」に関する論文資料を収録。

第1回配本全5巻 家族・家族制度論、家族・家族制度史 揃定価86,000円 ISBN4-87733-092-5

第2回配本全6巻 家族構造、大家族、戸籍・人口(統計) 揃定価116,000円 ISBN4-87733-093-3

第3回配本全5巻 家族の機能、家族の伝統と変化、農・山・漁村家族、都市家族 揃定価113,000円 ISBN4-87733-094-1

第4回配本全6巻 婚姻 揃定価120,000円 ISBN4-87733-095-X

第5回配本全5巻 離婚、相続、隠居、分家、親子、親族・同族・氏族、家族の問題 揃定価80,000円 ISBN4-87733-096-8

第6回配本 別巻 総目次、執筆者別索引、解説

本体5,000円(未刊)

A5判／総24,500頁／揃定価本体520,000円

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 ×ローナ日本橋

☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 http://www.kress-jp.com/

KRESS 株式会社クレス出版

●書店名

井上芳郎著／岡書院／昭和2年10月
政略結婚と武将の家庭
大塚久著／雄山閣／昭和4年9月

第13巻 昭和期② (解説〓千葉慶)

日本民族恋愛史
佐藤太平著／万里閣書房／昭和5年3月

近代日本女権史
戸塚松子著／紅玉堂書店／昭和5年8月

第14巻 昭和期③ (解説〓上笙一郎)

日本女性発達史
大井田源太郎著／日本文化研究所／昭和8年10月

日本女性史話
白柳秀湖著／千倉書房／昭和9年1月

第15巻 昭和期④ (解説〓大浜徹也)

日本女性八面観
歴史公論／雄山閣／昭和10年4月

女性史研究
歴史教育／歴史教育研究会／昭和12年6月

第16巻 昭和期⑤ (解説〓石月静恵)

女性二千六百年史
高群逸枝著／厚生閣／昭和15年2月

日本女性の生活と文化
遠藤元男著／四海書房／昭和16年8月

第17巻 昭和期⑥ (解説〓池川玲子)

母性の歴史
伊福部敬子著／新踏社／昭和17年9月

三代の女性
矢崎輝著／若い人社／昭和17年10月

第18巻 昭和期⑦ (解説〓池田忍)

女子教育史
桜井役著／増進堂／昭和18年2月

海国女性史
生田花世著／立誠社／昭和18年7月

第19巻 昭和期⑧ (解説〓米田佐代子)

日本の女性文化
近藤忠義編／堀書店／昭和18年12月

日本女性史



著 白柳秀湖

第20巻 昭和期⑨ (解説〓山崎朋子)

女性文化史
遠藤元男著／新府書房／昭和21年9月

日本女性社会史
高群逸枝著／真日本社／昭和22年10月

女性史学に立つ
高群逸枝著／鹿水館／昭和22年11月

第21巻 昭和期⑩ (解説〓山崎朋子)

女性史余話
隈崎渡著／新府書房／昭和23年3月

日本女性史
玉城肇著／雄鶏社／昭和23年5月

日本女性史
井上清著／三二書房／昭和24年1月

第22巻 昭和期⑪ (解説〓米田佐代子)

近代日本女性の解放
田中惣五郎著／社会教育連合会／昭和24年10月

近代日本の女性
三井礼子編／五月書房／昭和28年2月

日本女性史
メリー・R・ビアード著、加藤シヅエ訳／河出書房／昭和28年9月

第23巻 昭和期⑫ (解説〓猿渡士貴)

働く女性の歴史
三瓶孝子著／日本評論新社／昭和31年4月

日本女医史
日本女医史編纂委員会編／日本女医会本部／昭和37年9月

